

広島城関係略年表

年（西暦）	事 項
天正17年（1589）	毛利 ^{てるもと} 輝元、五力村への築城に着手
19年（1591）	本丸などの主要部分が完成し、輝元が入城（普請終了は慶長4年）
慶長 5年（1600）	関ヶ原の戦いで西軍敗北。輝元父子、周防・長門二か国へ減封。福島正則、尾張国清州から安芸・備後両国（49万石余）に移封（翌年入城）
元和 5年（1619）	幕府、広島城の無断修築を理由に正則を改易。浅野 ^{ながあきら} 長晟、紀伊国和歌山から入城（安芸と備後8郡42万石余）
元治元年（1864）	第一次長州戦争のため、城下に幕府軍の本営設置
慶応 2年（1866）	第二次長州戦争、再び城下に幕兵・諸藩兵が集結
明治 2年（1869）	版籍奉還（6月）。新政府、旧藩主浅野 ^{ながこと} 長勲を知藩事に任命
4年（1871）	廃藩置県、広島藩は広島県となる。本丸内に広島県庁設置（7月）。本丸内に ^{ちんぜい} 鎮西 ^{ちんだい} 鎮台第一分営設置、県庁は三の丸へ移転（10月）
5年（1872）	城内の門や櫓 ^{やぐら} の解体始まる。地名が改正され、城内は「基町」となる。
6年（1873）	本丸内に第五軍管広島鎮台設置（明治21年第五師団となる）、徴兵令発令（1月）。県庁、小町の国泰寺境内（仮設庁舎）に移転（明治11年 ^か 水主町に新庁舎建設移転）
8年（1875）	歩兵第十一連隊、広島に編成。広島城内に練兵場設置（明治23年西練兵場と改称）
13年（1880）	城内小姓町（西の丸）に ^{しちょう} 輜重兵第五小队設置
22年（1889）	宇品港竣工
23年（1890）	城内の大手郭 ^{くるわ} に憲兵隊設置
27年（1894）	山陽鉄道広島まで開通（6月）、清国に宣戦布告（日清戦争）、広島宇品間の仮設軍用鉄道開通（8月）。明治天皇、広島に到着（9月15日）。本丸の第五師団司令部庁舎に大本営開設（翌年4月27日まで）。西練兵場内に臨時帝国議会仮議場建築・竣工。臨時帝国議会、広島に召集（10月15日）
29年（1896）	大本営跡、永久保存決定。第五師団司令部庁舎、本丸内に新築
30年（1897）	広島陸軍地方幼年学校創設（旧仮議事堂が仮校舎）
31年（1898）	広島軍用水道・広島市水道の整備に伴い、大本営跡前庭に噴水池築造（大正14年「桜の池」と命名）
40年（1907）	第五師団傘下に歩兵第七十一連隊新設

年（西暦）	事 項
明治42年（1909）	外堀の埋立工事開始（明治44年10月竣工）
43年（1910）	旧御便殿 ごべんでん 、西練兵場から比治山に移設
44年（1911）	西塔川の埋立工事開始（大正元年11月竣工）
大正元年（1912）	広島電気軌道、外堀と西塔川の跡に軌道を敷設し路面電車開業（11月）
4年（1915）	広島県物産共進会開催（西練兵場が第二会場、4月5日～5月14日）
15年（1926）	大本営跡、史跡（史蹟名勝天然記念物）に指定（11月）
昭和 3年（1928）	天守閣・大本営跡の管理、広島県へ移管（1月）。天守閣の一般公開開始（10月）
4年（1929）	昭和産業博覧会開催（西練兵場が第一会場、3月20日～5月13日）
6年（1931）	天守閣、国宝に指定（1月）。満州事変始まる（9月）。
8年（1933）	官祭広島招魂社 しょうこん 、西練兵場陸軍用地に移転・改築起工（昭和9年竣工、14年広島護国神社と改称）
20年（1945）	本丸内に中国軍管区・第五十九軍の各司令部設置。 8月6日、原子爆弾投下。天守閣は爆風で東側に倒壊。各城門・櫓及び城内の軍事施設などが破壊され壊滅的な被害を受ける。
26年（1951）	城跡内で体育文化博覧会開催（3月25日～6月3日）。仮設で天守閣再現
28年（1953）	広島城跡、国の史跡に指定（3月）
31年（1956）	県庁舎、旧陸軍兵器補給廠跡 しょう （霞町）から基町に新築移転（4月）。護国神社、城内本丸に再建（11月）
32年（1957）	広島市民球場、西練兵場跡に完成（7月）。広島城天守閣（鉄筋コンクリート造）の復元工事開始（昭和33年3月竣工）
33年（1958）	天守閣、広島復興大博覧会の第三会場となる（4月1日～5月20日）。博覧会終了後、「広島城郷土館」として開館（6月）
38年（1963）	基町アパート（低層）の建設工事開始（9月。高層アパートは昭和44年12月着工）
53年（1978）	基町地区再開発事業完成、記念式開催（10月）
平成元年（1989）	築城400年記念式典開催。天守閣が歴史資料館としてリニューアルオープン（4月）。二の丸の補修・復元工事開始（表御門・御門橋は平成2年竣工、平櫓・多門櫓 たもん ・太鼓櫓は平成6年竣工）